

国府台病院「心療内科」後期研修(レジデント)プログラム

プログラムの目的と特徴

心療内科は身体の病気を従来の身体医学療法だけではなく、心理(精神)療法および行動科学的手法を併用して治していこうとする診療科です。生活習慣病をはじめとする現代身体病の多くは様々なストレス(心理社会的要因)の影響を受けて発症・慢性化・難治化していく心身症としての側面があることが知られています。こうした症例に対して、薬物療法や手術だけではなく心理療法というアプローチができることがわれわれの強みです。実際に肥満症や腰痛症など身体疾患の治療ガイドラインには認知行動療法的アプローチの有用性が示されており、エビデンスの確立しつつある分野です。

国府台病院心療内科は平成元年より診療を開始しており、平成 28 年現在では約 20 床を有している我が国では最大規模の心療内科治療施設となっています。また当科は摂食障害の患者数が突出して多く(2015 年の全国調査では年間患者数第一位)、重篤な身体合併症をもつ方々の治療を数多く経験しています。これらの患者さんに対して多職種とのチーム医療によって多様なニーズに応えるべく日々臨床に取り組んでいます。

当科の後期研修では心身医学の基礎を身につけ、患者さんを全人的なアプローチで治療できるスペシャリストの育成を目標としています。さらに摂食障害治療の急性期から慢性期までを経験できることが大きな特徴です。当科の常勤医師は全員が内科認定医・心身医学会代議員・摂食障害学会員であり、心療内科学会専門医3名、日本甲状腺学会専門医 1 名、日本内観医学会認定医1名とサブスペシャリティも様々です。非常勤では、それぞれ専門分野をもつ医師や臨床心理士が10名在籍しており、認知行動療法、自律訓練法、芸術療法、システムズアプローチ、東洋医学、内観療法、ヨーガ療法、ユング心理学など様々な分野の指導が可能です。

3 年間の研修と到達目標

基本的に、日本心療内科学会専門医研修プログラムおよび日本心身医学会心身医療専門医研修プログラムにそって研修は行われます。

後期 1 年目

治療者としての基本的な診療姿勢である受容・傾聴・共感的な態度の習得と、患者との良好な信頼関係の樹立を可能とする診療態度の習得を目指します。また、心身医学領域で中心的な精神(心理)療法である、自律訓練法、交流分析、行動療法(認知行動療法)の手法の習得を目指します。このほか、分析心理学(ユング派心理学)や心理教育的アプローチを専門的な指導者のもとで学んでいきます。さらに、専門医の初診に陪席して専門的な問診・診察手法を学び、上述した各種技法を学ぶと同時に、病棟主治医として心身症患者の診療にあたりながら基本技法の習得を目指します。

後期 2 年目

病棟主治医、外来主治医として各種の心身医学療法を駆使しながら心身症患者の診療に従事します。特に、摂食障害、消化器、アレルギー、内分泌、神経・筋、循環器系の心身症を中心に診療を行います。後輩の指導や多職種との効果的な連携について経験を積んでいきます。

後期 3 年目

2 年目と同様ですが、心療内科専門医、心身医療専門医を目指して、不足している研修を行うと同時に、向精神薬や漢方剤の使い方についても補助的な治療法として研修を行います。

週間研修プログラム(後期1年目前半の一例)

	月	火	水	木	金
午前		摂食障害集団心理教育 (第2・3、4週)	病棟回診 病棟カンファ	初診(陪席)	
午後			カルテ回診	集団自律訓練法 (第2・4週)	
夕方	新患カンファ 症例検討		抄読会 各種勉強会・拡大症 例検討会(随時)		症例検討会・心理面 接の技能向上のため のスーパービジョン (随時)

* 上記以外は、随時、外来、病棟や救急当番を担当します。

スタッフ一覧

医師名	役職	出身大学(卒業年次) 及び主な職歴	資格、所属学会	診療の領域
河合 啓介	心療内科 診療科長	愛媛大学卒(平成元年) 長崎大学第一内科 カナダ・トロント大学内分泌研究 所研究員 九州大学心療内科講師 医学博士	日本心療内科学会専門医、理事 日本内観医学認定医 理事 日本内科学会認定内科医・指導 医、 日本心身医学会(内科)専門医、 代議員 日本摂食障害学会、評議員 日本甲状腺学会専門医、評議員	心身医学
田村 奈穂	医師	秋田大学卒(平成11年) 仙台市立病院内科、 九州大学心療内科、 福岡病院	日本心療内科学会専門医、 日本内科学会認定内科医、 日本医師会認定産業医、 臨床研修指導医、 日本心身医学会会員、代議員	心身医学、 精神療法医学

			日本摂食障害学会会員、評議員 日本自律訓練学会、評議員	
権藤 元治	医師	熊本大学卒(平成13年) 聖マリア病院 北九州市立医療センター 九州大学心療内科助教 医学博士	日本心療内科学会専門医 日本内科学会認定内科医 日本心身医学会会員 日本摂食障害学会会員	心身医学、 糖尿病学

レジデントからひとこと

吉田 庸子 (平成 23 年度)	<p>当院の心療内科レジデントは病棟で主治医として診療にあたるほか、外来も週 1 回担当し、実践的な研修を送っています。スタッフの先生や心理士の先生に相談できる機会は多く、診療内容以外にも自分の興味のある心理療法や分野について学ぶ機会を与えていただき、恵まれた環境で研修することができます。</p> <p>また、当科の診療には看護師、心理士、薬剤師、栄養士、ソーシャルワーカーなど多職種との連携が必須で、患者さんの問題に対する全人的なチーム医療の実践を日々体感し、多くのことを学ばせていただいています。</p> <p>自分のニーズに合わせた研修を組むことが可能な環境で、充実した研修生活を送らせていただいています。</p>
本間 洋州 (平成 23・24 年度)	<p>当院心療内科の特殊性は、病棟においては、摂食障害の患者の多さにあると思います。摂食障害に対して入院加療が可能な病院は、全国的にみて多いとは言えません。ここでしか学べない摂食障害の治療があると感じています。外来においては、摂食障害に限らず多種多様な症例を経験します。それだけ勉強すべきことは多いです。しかも、ここではレジデントの主体性がとても重視されており、責任の重さとともに心身医学を志す者として、大きな“やり甲斐”を得ることが出来ます。そういった環境が整った、唯一無二の医療チームだと感じています。</p>
藺田 将樹 (平成 25・26 年度)	<p>歴史ある当院心療内科では、先人方の功績により、多くの患者がその名声により来院されています。他院では治療困難な患者も含め、多くの症例が集まる当院ならではの貴重な経験を積ませていただける非常に恵まれた病院です。また、カンファレンスや勉強会なども充実し、ベテランのスタッフや多くの臨床心理士も擁する日本でも数少ない施設の一つです。勉強させていただくことも多く、充実した日々を楽しんでおります。臨床としても、チームの一員としての主体性をもって、多くの患者に貢献できるよう頑張っていきたいと思っています。</p>
須田 真史 (平成 26 年度)	<p>当院心療内科の特徴は、摂食障害患者さんの多さだと思います。摂食障害は症状が多彩で一般に難治であり、治療できる医療機関も限られているというのが現状ですが、当院では経験豊富な指導医の下、十分な治療経験を積むことが出来ます。また、地域からの信頼厚く多くの患者さんが集まることから、摂食障害に限らず、幅広く、多くの治療経験を積むことも出来ます。そういった“第一線の現場で揉まれる”経験は、今後の治療者としての成長の大きな糧となると感じています。</p>